

2007年度(平成19年度)学校評価自己評価表

校番 7	福山市立済美中学校
------	-----------

1 学校教育目標

心豊かに他者とかがわり、確かな学力を身に付けて、夢を語り、自らの進路を切り拓く生徒の育成

2 経営理念

(1) 地域社会における自校の使命(ミッション)

- 1 21世紀をたくましく生きる生徒の育成
- 2 校訓に則り、地域から信頼される学校
- 3 力量ある人材を育成する学校

(2) 使命の追求を通じて実現しようとする自校の将来像(ビジョン)

- 1 目標をもって学ぶ意欲を向上させ、基礎基本の定着を図る。
- 2 基本的な生活習慣を確立し、豊かで元気な心を育て社会性を身につけさせる。
- 3 各種研修の積極参加と校内研修の充実

3 自校の現状分析

- 1 生徒は概ね楽しく明るい中学生を送っている。朝の部活動は極めて活発で130名以上の生徒がグラウンド、体育館、音楽教室等で練習をしている。
- 2 挨拶等は受身的である。率先して挨拶できる生徒は約半数である。
- 3 授業は静かに受けているが、学力的に低い生徒が一部にいる。また、生徒指導面で課題がある生徒が固定化しており、生活意欲、学習意欲を失っている。
- 4 教職員は意欲的で、分掌組織を意識した動きになっているものの、学校教育目標達成に向け、各自の役割を果たすために、職能成長を図り、やりきろうとする意識を強く持つことが必要である。

4 研究主題

(1) 研究主題

主体的に学ぶ力を高め、基礎的学習能力の定着を図る。
～ 聞く・話す・読む・書く力を育てながら ～

(2) 研究指定

指 定	事 業 名 等	期 間
市 市	教育研究支援事業 少人数指導推進支援事業	平成19年度までの3年間 平成19年度

5 今年度の重点目標と設定理由

重点目標	設定理由
1 指導法の工夫改善をすすめ、基礎基本の学力の徹底	基礎基本定着状況調査等の結果、基礎基本の学力の定着に課題がある。(特に英語)
2 基本的な生活習慣を確立させ、心豊かに他者とかがわる力をつける。	遅刻・挨拶・服装・授業への集中等規範意識が十分でない生徒、言葉遣い・内容等伝え合う力が不十分な生徒が各学年とも少なからずいる。

6 評価基準

各種検査、生徒・保護者・教職員・来校者アンケート、実績、数値の根拠に基づき、分掌・学年で精査し、校内評価委員会で達成状況を評価決定する。

- A 目標達成 (達成率80%以上)
- B 概ね達成 (達成率60%以上80%未満)
- C あまりできず(達成率40%以上60%未満)
- D 達成できず (達成率40%未満)

7 目標・評価項目の設定と評価

市重点 目標	中期経営目標	短期経営目標	評価項目	分類	(最終) 評価	短期経営目標の達成状況 及び 次年度の改善方針	次年度 方針
確 か な 学 力	一人一人に応じたきめ細 かな指導	数学、英語の少人数指導(習熟度別指導) や指導法の改善等を通して、基礎基本の定 着をはかる。	基礎基本定着状況調査で、数・英の通過率6 割を上回る生徒80%。	継続 重点	B	国語83.3数学48.1英語53.7(%) 「ねらい」の明確化による授業の活性化を図る。	継続
			年度末にCRTを実施し、5教科全観点で6 割を上回る。	新規 重点	C	1年・・・18観点中12観点で上回った。 2年・・・16観点中12観点で上回った。 結果分析後、生徒面談等を行い、生徒の学習意 欲向上と教員の授業力向上を図る。	継続
	指導に生かす評価 (指導と評価の一体化)	評価基準を盛り込んだ単元別指導案を作 成する。	全教科・全教員で評価基準を盛り込んだ単元 別指導案を作成する。	新規	A	全員作成した。 さらなる充実を期すため、分かりやすい評価基 準づくりを研修する。個に応じたきめ細かい指 導を行う。C評価生徒対策記載。	見直し
	ことばの教育の推進	教育活動全般において取り組む。	TPOに応じ、主語、述語を入れて適切に表 現できたと感じる生徒を70%にする。 (職員室)	新規 重点	A	生徒の8割以上ができていますと答え、教員の 半数以上が肯定的回答である。 完全達成100%をめざす。	継続
	キャリア教育の推進	チャレンジ・ウィークふくやまを充実させ る。	実習した生徒の70%以上が将来の夢や進 路に対して目標を持てるようにする。	新規	A	70 63 65 81(%) (7,9,10,2月) 諸分野キャリア講演などを実施し、目標達成の 道筋を掴ませる。	継続
	特別支援教育の推進	対象となる生徒の個別の指導計画を作成 し、指導の記録を行う。	学期末に取組み状況と課題を校内研修会で 報告する。	新規	A	校内推進委員会を立ち上げ、実態把握、課題検 討。(3回)、校内研修会も3回実施。 形は整ったので、内容的な充実を図る。	継続
	読書活動の推進	読書感想文コンクールへ応募できるよう 学校全体で指導を行う。	80%以上が応募する。	継続	A	全校生徒が読書感想文を書いた。 「書く」指導の充実。感想文提出回数が増。	見直し
			朝読の時間の充実を図る。	図書室の本を年間12冊以上読む生徒 80%。	新規	D	7月10% 10月11% 校内読書マラソンの実施
	自学自習の推進	家庭学習の充実に取り組む。	宿題の達成率を100%にする。	新規	B	63%の教員が達成率100%と回答。 家庭にも協力を求め、家庭学習時間を増やす指 導を行う。	改善 継続
	生徒の自律を育成する生 徒指導	「規範意識」「協調性」を育てるきめ細か い生徒指導を行う。	週1回の生徒指導担当者会を行い、問題行動 の昨年度比75%以下。	継続	B	昨年度24件、本年度22件 道徳・生徒集会等の充実により未然防止に努 める。	重点 継続

(管理規則第3条実施要領 別紙様式)

豊かな心		生徒会活動を充実させる。	「挨拶運動など生徒会活動が活発だと思う」生徒80%以上。	継続	A	生徒78%、教員74%が肯定的回答 生徒会での校内放送や美術授業でのポスターづくりなどを通して呼びかけ回数を増やすなど、自主的活動を促進させる。	継続	
	たくましく生きるための健康・体力づくり	基本的な生活習慣を身につけさせる。 部活の活性化をさらに図る。	遅刻者1日平均3%以下。(学期単位集約)	新規重点	D	4月～1月 月平均遅刻率5.1% 保護者会などを通して、規則的な生活習慣の確立を呼びかける。顕彰する。	継続	
			無欠席生徒の割合20%以上。(学期単位集約)	新規重点	A	1月末1年42.6%、2年28.8% 3年38% 無欠席生徒の割合を50%に引き上げる。顕彰する。	改善 継続	
			生徒集会時に服装検査実施。 違反者を各クラス10%以下。	新規重点	A	1年は通年ほぼ0%、2年9.6%、3年11% 学年初期段階で指導の徹底を図る。	改善 継続	
			部活出席率80%以上。	継続	A	定点調査による。クラブ顧問の64%が部活動出席率80%以上と答えている。 部活動強化週間等を設け、全校生徒が活動するよう仕向ける。	見直し	
	不登校への取り組み	組織的な教育相談を確立し、計画的な指導を行う。	週1回の教育相談部会を実施する。	継続	A	定期的に開催しており、機能的・計画的である。 一層の機能化と、全教職員での共有化を図る。	継続	
		欠席者に対する面接・家庭訪問を行い、早期対応と支援を行う。	不登校等長期欠席生徒を20人以下にする。	新規	B	1年5、2年11、3年8人(昨年37) 改善傾向にある生徒も数名いる。 連続欠席者への面接強化。教育相談会議での次の一手の明確化。	継続	
	力量ある教職員	学校教育目標実現へ向けての校内研修	組織的教育活動と実践的な研究・研修を推進する。	10年経験者研修を核にした授業研究を含め、校内研修を11回は実施する。	新規重点	A	校内研修17回実施(授業研究・各種研修) 研究主題の徹底と研究主題に迫る研修の充実。	継続
		教育研究団体を中心とした自主研修	自主研修を促進し内容的に深める。	全員研究団体に参加し、研修等の会合に年間2回以上参加する。	継続	A	2名は不参加。一人一回以上。 教育研究団体(各教科・領域)主催の授業研または研修会を本校で開催する。	見直し
				研修報告書(A4・1枚)を作成し還元する。	新規	A	研修報告は毎回作成させている。 (主任はプレゼンを行った。) 報告にとどまらず短時間でも参加者全員がプレゼンする。	継続
指導法交流の活性化を図るための教科部会		指導法工夫・改善へ向けて教師間の交流を深める。	指導法工夫改善へ向けた実践交流をするため、毎月1回は教科部会を持つ。	継続	A	計画的に開催してきた。4月は3回以上開催。 教科部会報告を全員配布する。	改善 継続	

(管理規則第3条実施要領 別紙様式)

市民から信頼される学校	学習指導要領等の法令に基づいた学校運営	学校情報の積極的公開により、教育の中立性及び信頼性の確保を図る。	月1回の学校・学年・学級通信の発行。	継続	A	学校通信35回以上、学年通信平均38回、学級通信2回~115回以上。 学校・学年・学級の様子が更に保護者に伝わるようにする。	改善 継続
			年1回の公開授業研究(教育実践発表)実施。	継続	A	公開授業研究会実施。10月19日 保護者等130名出席 提案型公開授業研究会 を開催する。	継続
	校長を中心として組織的に行う学校マネジメント	組織的な教育活動の展開を目指し、校務分掌・委員会等の効果的な運営体制を確立する。	校務分掌に基づき、仕事を明確にするための見直し作業を各学期末に行う。	新規	A	定期に見直し、必要な修正を行った。 各分掌組織の一層の能率化をはかるための機構改革を検討する。	見直し
			起案定着度100%。	継続	A	ほぼ定着。 主任・主事のチェック機能の向上。	継続
		生徒・保護者対象に学校評価自己評価に関するアンケート調査を実施し分析・公表する。	アンケートは生徒に対し年間2回、保護者に対しては年間1回実施し、「済美中学校に行ってよかった」の項目が70%を上回る。	新規	A	アンケート実施予定通り。満足度はA評価 更にこまめなアンケートでより満足度を高める。	改善 継続
	教育公務員としての教職員の自覚と使命感	管理規則、服務規定等の法令に関する知識理解を深める。	服務に関する研修を年間6回実施する。	新規	A	服務に係る研修13回実施。研修を実践に移すための間のマニュアル等も作成した。適宜研修・指導を追加した。 演習参画型研修の回数増。	継続
			学校管理・運営関係資料の21項目について、計画的に研修する。	全項目の研修を実施する。	新規	A	全21項目研修終了。さらに、機会を捉えての研修も追加した。 担当者を決め講師を務めさせることで意識を高める。